

令和2年度 学校法人 むかわ文化学園 むかわひかり認定こども園 園評価（自己評価）

評価 3：よくできている 2：まあまできている 1：あまりできていない 0：できていない

1 保育の計画性

	内 容	評価点
①	園の教育理念や教育方針を理解する	2.3
②	幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し、それをもとに保育計画を立てる	2.2
③	日・月案は、園の方針、教育要領、教育課程、幼児の実態をもとに作成している	2.4
④	クラスの保育・教育指導はクラス担任が十分話し合い、協働体制で取り組みをする	1.9
⑤	幼児が主体的にかかわりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をする	2.5
⑥	季節の変化に応じた環境構成をする	2.6
⑦	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をする	
⑧	自分の保育を評価し、反省して次の保育に生かす	2.4
<p>～主な成果（よくできたこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ対策として（玄関周り、水飲み場）を掃除をし衛生管理に努めた。 気温や湿度に応じて換気したり室温調整を行った。また、季節の移り変わりとともに保育室の飾りを変え、四季を感じられるよう工夫した。 子どもが動きやすいよう、取り組みやすいよう、前回の反省をし変更しながら進めた。 日頃の取り組みとして、COT（コーディネーショントレーニング）を進めていくことができた。 冬期は保育室の加湿を増やしたり、環境構成に努めた。 		
<p>～課題（今後やるべきこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々、保育計画をし目標を持って取り組み反省を行う。積極的に同僚と話し合い、理想的な保育を目指す。 担任同士が良く話し合い、より良い保育ができるよう協力しあっていく。 子ども達の日々の様子を記録すると共に、将来身につけたい一人ひとりの目標を具体的に考える。 年齢や子どもの特徴の違いなどで対応の仕方も変わるため、保育雑誌などを活用しながら勉強していこうと思う。 		

2 保育の在り方、幼児への対応（3～5歳児の担当者）

	内 容	評価点
①	朝の登園時は視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認する また、新型コロナウイルス感染症予防の健康観察を実施する	3.0
②	幼児の話をよく聞き、言葉にならない思いや、サインを受け止めるよう心掛ける	2.6
③	幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛ける	2.8
④	幼児を誉めたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉がけをする	2.7
⑤	他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫、保育の形態を取り入れる	2.1
<p>～主な成果（よくできたこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の話をよく聞き、遊び、興味あること、物を用意し、楽しく過ごすことができた。 朝の会で出席をとる際、子ども達が「はい、元気です。」「はい、鼻水がでます。」など体の様子を言うことで子ども達の体調の変化に気をつけて見ることができた。また、子ども達とコミュニケーションをとる機会にもなった。 子どもとの関わり、コミュニケーションを沢山とることが出来た。仲立ちする事も多かったが、徐々に子ども同士で上手に遊べるようになっていた。 朝のあいさつを通して子どもの体調を把握したり、スキンシップを交えた。言葉掛けを行うよう心掛けた。 		
<p>～課題（今後やるべきこと）～</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のクラスとの交流がお店屋さんごっこくらいしかできなかったため、もう少し考え、他のことでも交流できるようにしたい。 子ども達をよく観察し、心の声を聞きとることができるよう努める。 複数担任の場合は、幼児の対応や許容範囲に担任同士差が広がらないようにしていかなければならない。 今年度以降もコロナが流行してくると思うので、今年度の経験を生かし、来年度も感染対策をしていく。 		

3 保育の在り方、乳幼児への対応(0～2歳児の担当者)

	内 容	評価点
①	朝の登園時は視診を大切にして、乳幼児の健康状態を確かめる また、新型コロナコロナウイルス感染症予防の健康観察を実施する	2.7
②	体調が悪そうな時は静かに寝かせたり検温をするなど、適切な処置を行いすぐに家庭に連絡する	2.8
③	家庭と連絡をとりながら一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ食への意欲を育てる(0歳児)	2.5
④	一人ひとりの排泄間隔を把握し、その子の排泄のリズムに合わせて、オムツ交換をしたりトイレに促している(1～2歳児)	2.6
⑤	乳幼児の話をよく聞き、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう心掛ける	2.4
⑥	月指導計画により、一人ひとりの乳幼児の発達課題について見直しをもって保育する	2.5
～主な成果(よくできたこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの様子を見て何を困っているのか(伝えているのか)を何度か察知し、援助することができた。 ・ 発達に大きな違いがある為、一人ひとりに合った声掛けや、やり取りを行うよう心掛けた。 ・ 体調のことやトイレトレーニングについてなど保護者と話をし、一人ひとりに合わせて進めたり、様子を見ることができた。 ・ ⑥・・・毎月、個別指導計画を立案することにより、発達過程や現在の目標(頑張ること・身に付けること)を明確にし保育することができた。 		
～課題(今後やるべきこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人差があることを考え、発達に合った保育を行えるようにしたい。 ・ 言葉で伝えられない分、子どもの様子をみたり声掛けで確認していたが、理解しきれないこともあったので、今後もしっかり関わっていく。 ・ ⑤・・・できるだけ欲求を受け止めてあげられるよう関わっていく。 ・ どんどん成長する子ども達と過ごし楽しむことは大事なことだと思うが、小さくても、理解できなくても、声掛けや表情で良し悪しを伝えていきたい。 		

4 保育者としての資質や能力、良識、義務

	内 容	評価点
①	保育をとおして保護者との信頼関係を築くよう努める	2.6
②	保育時間外でも、保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がける	2.5
③	職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守る	2.9
④	服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全にも気をつける	2.9
⑤	教育・保育業務を効率よく遂行するため、締め切りのある行事計画や会議等の提出物、会議や打ち合わせの時間をきちんと守る	2.5
⑥	子どものこと、クラスの出来事などで必要な事は園長や主任に報告、連絡、相談する	2.6
⑦	上司の指示、命令には責任を持って実行し、他の職員とコミュニケーションをとり、チームワークを大切にし対応する	2.5
⑧	幼児の教育・保育に関する情報を日頃から得ようと努める	2.5
～主な成果(よくできたこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に働く職員とコミュニケーションをとり、連絡もメモを使い、伝え漏れがないよう気をつけた。 ・ チームワークの相互理解に努めた。 ・ 子どもの頑張っているところ、良い面などを、おたより帳や口答などで保護者に伝えるようにした。 ・ ⑧・・・未満児クラスを持つ上で、日々、知識不足を感じていたため、疑問に思うことはすぐ調べたり、未満児向けの保育雑誌を見て、例年以上に知識を得ようと努力した。 		
～課題(今後やるべきこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者同士チームワークを大切に進めていく。 ・ 謙虚な気持ちを持ち、保育がスムーズに進められるよう努めたい。 ・ 考え方や感じ方の違いが大きい保育者ともコミュニケーションをとり、よりよい保育につながれば嬉しい。 ・ べ切を過ぎてしまうことがあったので気を付ける。保育者同士で伝え忘れることがあったので、反省し次に生かす。 		

5 保護者への対応・守秘義務

	内 容	評価点
①	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝える	2.6
②	普段から親しみを込めた挨拶や会話を心がけ、保育者として良識ある対応をする	2.9
③	教職員や園の批判を軽はずみにしたり、プライバシーについて他へ漏らさない	2.8
④	保護者からの依頼や伝言等については、メモするなどきちんと対応する	2.7
⑤	保護者からのクレームがあった場合は、謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談する	2.8
～主な成果(よくできたこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> どの利用者にも平等に対応するように心がけた。話しやすい雰囲気を作り、利用者同士つながれるようにした。 挨拶やプライバシーを守ることは出来たと思う。 連絡帳には連絡事項だけを伝えるのではなく、その日の個々の子の様子を伝えたり、様子を伝える時は、温かみのある文章にするよう心掛けながら記入した。 ②・・・笑顔で明るく挨拶をし、自分からコミュニケーションを深められるよう保護者と関わった。 		
～課題(今後やるべきこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> 対応(伝言、報告)を的確にこれからも行っていく。 人と会話をする時に伝えたい内容を伝わりやすくまとめて話したいので、「語彙力」を高めなければならない。 保護者の気持ちに添った言葉掛けができるよう努める。 特定の子同士のトラブルが続かないよう未然に防いだり、該当の保護者に伝える時は丁寧に説明をし、不安感が残らないように対処する。 		

6 地域の自然や社会とのかかわり

	内 容	評価点
①	園外散歩や公園の活用をとおして、地域の人々と親しく挨拶を交わす	2.9
②	地域の自然や公共施設を指導計画の中で位置づけて活用する	2.5
③	実習生や中高生の保育体験、ボランティアを受け入れるときは、親しみを込めた挨拶や会話を心がける	2.8
④	保育・教育実習生には、園での実習が学び多きものになるよう、丁寧な指導を行う	2.2
～主な成果(よくできたこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> 保育者が地域の人達にきちんと挨拶することで、子ども達も挨拶するようになったので続けていきたい。 教育実習生には丁寧な指導とコミュニケーションも十分にとることができた。完全実習も成功し、学び多きものになったと思う。 町の方へのあいさつをすることで、子ども達からも自然とあいさつをするよになっていた。 園外活動の時には地域の方に声をかけ、子ども達にも挨拶の大切さを伝えるようにした。 		
～課題(今後やるべきこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> 実習生がもっと身になるような「制作」や「子どもの保育に役立つ物」づくりを用意して迎えたい。 普段、散歩しているコースを保護者に紹介するとよかった。 園外散歩や季節の自然に触れる機会を充実させる。 実習生が実りある実習生活をおくれるよう丁寧な指導を行っていきたい。そのためには、日々、保育の質を高められるよう努める。 		



【入園式】



【こぐまクラブ】

7 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

	内 容	評価点
①	研修会等には、目的意識を持って参加し、報告書は必ず提出する	
②	自分の保育については、自己課題を持ち計画や反省を行う	2.5
③	園の遊具・教材の利用方法を知って、危険のないよう活用する 施設設備の安全確保及び子ども達の保育・教育の安全指導の取り組み(事故防止チェック:年4回)	2.6
④	子どもを取り巻く様々な情報に関心を持ち、保育に役立てる	2.5
⑤	子ども達の安心、安全に関する危機管理に興味や関心を持って取り組む	2.7
～主な成果(よくできたこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が安心して遊べるような環境づくりをする為、先生方と話し合ったり、情報を入手したりする事が出来た。 書物や保育関係のインターネット情報を参考にし、それを保育に取り入れ子ども達と楽しむことができた。 安全に大きなけがをする事なく過ごせた。色々な遊びを取り入れ、楽しみながら経験することが出来た。 今年度、離乳時を経験し、わからない事が沢山あったが、他の保育者に聞いたり、資料を見ながら勉強することができ良かった。 子ども達が楽しめるよう自分で考えた保育内容以外にも、他クラスのアイデアを取り入れ様々な活動をする事ができた。 		
～課題(今後やるべきこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> 子ども達のトラブルを未然に防いでいき、楽しく遊べるように心掛けていきたい。 子どもが関心を持っていることに常にアンテナをはり、楽しくやりとりができるように心掛ける。 ⑤・・・危険だとおもっていることはあるが、対応しきれないこともあった。担任同士でしっかり話し合いの機会を作る。 年齢や子どもの特徴によって関わり方の違いがあり難しい。また、保護者の対応や保育者同士の連携も難しいため、様々な状況に対応できるよう学んでいきたい。 		

8 地域における子育て支援(子育て支援担当者)

	内 容	評価点
①	子育て支援事業について、利用者にパンフレットやおたよりでわかりやすく説明する	2.0
②	親しみやすい雰囲気心がけ、利用者に積極的に声をかける	3.0
③	講座等で子育ての学習の機会を設けて、親の支援ができる場を作る	
④	利用者同士の関係が作りやすいよう配慮して、遊びや場の設定する	3.0
⑤	どの利用者にも公平に接する	3.0
～主な成果(よくできたこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> 利用者同士のつながりができるように、コミュニケーションがとりやすい雰囲気づくりを心がけた。 		
～課題(今後やるべきこと)～		
<ul style="list-style-type: none"> パンフレット配りができない時には利用者の口コミを頼る等、色々な方法を考えていく。 		



【 運動会 】



【 夏まつり 】

むかわひかり認定こども園の教育・保育目標

- ・ 元気で明るい 子ども（体）
- ・ 思いやりのある 子ども（徳）
- ・ 自分で考え 行動する子ども（知）

〈 具体的な取り組み 〉

- 体・・・COT（コーディネーショントレーニング）、リズム遊び、散歩（歩く）、サッカー、園庭や公園での遊びや遊具の活用、プール活動等で丈夫な体を作る。
- 徳・・・たてわり保育、様々な行事（老人ホームの訪問や町内各種イベントの参加を含む）、友達との自由遊び、花や野菜の栽培、昆虫などの飼育等で思いやりの心を育てる。
- 知・・・英語、制作活動（粘土、工作、絵画等）、手遊び、歌やダンス、読み聞かせ、様々な玩具類の活用、町内めぐり、見学旅行、虫歯予防教室、食育教室、交通安全教室等で豊かな心を育てる。

1、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

「子ども子育て関連3法」に基づく「子ども・子育て支援新制度」が平成27年度から本格的にスタートし、本園では幼稚園教育要領・保育所保育指針と分かれた教育・保育要領を幼保連携型認定こども園教育・保育要領として一本化した。今年度は保育計画を随時見直しをして実践しているが、次年度は新型コロナウイルスの影響もあるので更に検討が必要である。

2、外部指導者の招聘

今年度は新型コロナウイルスの影響で外部講師を招聘できない活動もあったが、子ども達にとって、外部指導者からの専門的指導は大きな刺激となっている。次年度は、外部指導者と指導計画等の事前打ち合わせを行い、より一層効果をあげたい。

3、保育者会議

全保育者を対象とした保育者会議（月一回）を実践して4年目になる。

- ① 翌月の行事の提案・検討 ② 終了行事の反省 ③ 事故防止に向けた取り組み ④ 各クラスの状況報告等おこなった。

また、保育者会議には資料を事前配付し、職員は目を通してから会議に臨むようにし、会議を効率よく実施した。

※ 保育者会議の活性化を図るため、最低一人一発言を目標に取り組みを進めている
（ 積極性や主体性は、園の活性化につながり、協働体制を創り出す ）

子ども理解を深め専門性を高めるために

研修時間を設定し、各種研修会（園外研修）に参加した保育者は研修内容を報告、交流し、その成果を還元する予定であったがコロナの影響で研修会に参加できず実施できなかった。

そのため

次年度は、園内研修を充実させ、

- ・ 保育者に求められる資質
- ・ 保育者に求められる専門性

について研修を行いたい。



【 やきいもパーティー 】



【 クリスマス会 】

4、協働体制の充実

こども園評価で

1 保育の計画性の

④クラスの保育・教育指導はクラス担任が十分話し合い、協働体制で取り組みをする

が、評価で1, 9となっている。

保育・教育指導を展開していく場合、保育者同士がコミュニケーション、共通理解を図り、園児一人一人に適切な援助を行ない、園全体としての保育・教育活動を展開する必要がある。

今年度、職員に提示した下記の「令和2年度「こども園」をこんな職場に」を話し合い、保育士同士の連携を図っていききたい。

令和2年度の「こども園」をこんな職場に

明 る い

私たちの生活時間の多くは園です。そして付き合う時間の多いのは同職の人です。これが暗かったら息がつまります。明るい園は、明日の意欲を喚起します。

- 相互理解、協調に努め、教職員の力を結集しましょう。
- 不平不満は、蓄積しないことにしましょう。
- 許容と妥協の人間関係は本物ではありません。前向きで、向上心を持ち研き合う人間関係をつくりましょう。
- 相手の立場を考え、認める寛大さを持ちましょう。
- 笑顔と笑い声とユーモアに満ちた雰囲気をつくりましょう。
- 仕事に真剣に取り組むが、深刻にならないことにしましょう。

キーワードは

和

- 仲良くすること。互いに相手を大切にし、協力し合う関係にあること（協働体制）
- 調和のとれていること（共通理解）
- 和はプラス思考。前向きな考え方を持とう。（実践）

4、次年度にむけて

今年度の成果と課題を次年度に生かしたい。



【 町内めぐり 穂別博物館 】



【 見学旅行 千歳水族館 】